

I. 前期基本計画期間中の社会潮流の変化

○ 少子・高齢化と人口構造の変化

全国の人口は、27年国勢調査で、減少に転じたが、埼玉県は、増加している。県南自治体では人口増加、県北自治体で人口減少、地域間格差が拡大している。高齢者人口は増加し、出生数は減り続けている。

○ 経済状況の変化

景気は回復傾向が続き、大学生の就職内定率や失業率は改善しているが、個人消費や実質賃金が伸び悩んでいる。埼玉県は、圏央道や外環道の開通による利便性の高まりから、食品、印刷、化学、物流などの業種の企業立地が活発化している。

○ 将来への不安と地域コミュニティの弱体化

非正規雇用者数の増加(特に若者)、所得の格差が拡大し、子どもの貧困や社会的孤立が問題化している。高齢化と人口減少による地域コミュニティの弱体化(自治会、消防団の加入・活動の低下など)が見られる。

○ 様々な災害・脅威の発生

鬼怒川水害(2015年)、熊本地震(2016年)が発生、台風の上陸や局地的な集中豪雨、竜巻も頻発し、地球温暖化、他国からの武力攻撃のおそれ、鳥インフルエンザ等の感染症の拡大等の国際的な脅威も発生している。

○ 子ども・子育て支援、教育の必要性の高まり

2015年4月から「子ども・子育て支援新制度」が開始され、また、2022年から学習指導要領の全面改訂が実施される予定である。ICTの高度化や国際化などの分野で教育の必要性が高まっている。

○ 地域の自立と行政改革の要請

厳しい財政の中でも、地域の特色を活かし、人口の少子・高齢化、公共施設等の老朽化、多様化する住民のニーズに対応する必要がある。公共施設等総合管理計画や地方創生の取り組みが要請されている。

【まとめ】

基本構想、前期基本計画の前提である社会潮流の大きな方向性は変わらず、様々な課題への対応の必要性が高まっている。

II. 前期計画の進捗状況

1. 進捗管理の対象: 基本構想の町の将来像などをめざす7つの主要施策と2つの重点戦略

町の将来像「笑顔が未来に広がる 緑あふれるみんなのまち!」

主要施策

- 大綱1 未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり
- 大綱2 健康で生きがいをもって暮らせるまちづくり
- 大綱3 町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり
- 大綱4 活気あふれるにぎわいのまちづくり
- 大綱5 利便性の高い快適空間のまちづくり
- 大綱6 安全・安心な暮らしのできるまちづくり
- 大綱7 効率的で質の高い町政運営を進めるまちづくり

2つの重点戦略

- 1 人口増を目指す戦略
- 2 定住化を進める戦略

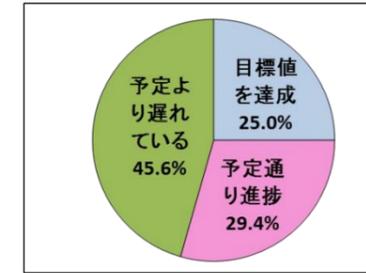
7つの大綱に対し 基本計画において、29の大項目、68の指標・目標を設定

まつぶし北部活性化プロジェクト
新市街地整備プロジェクト

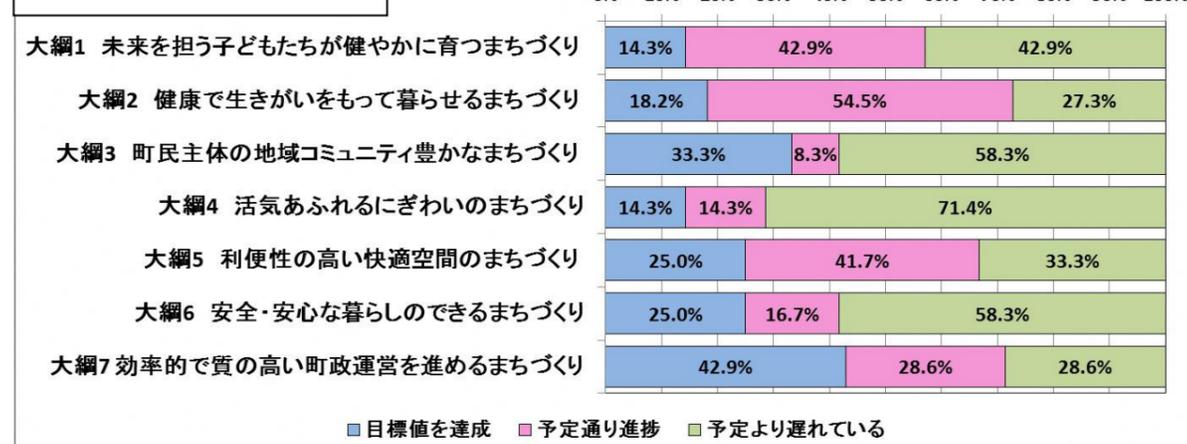
進捗の管理

2. 大綱一基本計画の進捗の状況

| 全体の進捗状況 | 指標数 | 割合 |
|-----------|-----|--------|
| 目標値を達成 | 17 | 25.0% |
| 予定どおり進捗 | 20 | 29.4% |
| 予定より遅れている | 31 | 45.6% |
| 総計 | 68 | 100.0% |



大綱別進捗状況(割合)



【まとめ】

- ① 目標値を達成(17指標)と、予定通り進捗(20指標)を加えると、68指標中、37指標であり、5割強の進捗。
⇒ 5年計画中、3年度経過時としては、概ね妥当な進捗として、平成30年度に向けて更に推進していく。
- ② 大綱別には、「目標値を達成」と「予定通り進捗」を合わせた割合が多いのは、「大綱2 健康で生きがいをもって暮らせるまちづくり」「大綱5 利便性の高い快適空間のまちづくり」「大綱7 効率的で質の高い町政運営を進めるまちづくり」であり、「予定より遅れている」の割合が多いのは「大綱3 町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり」「大綱4 活気あふれるにぎわいのまちづくり」「大綱6 安全・安心な暮らしのできるまちづくり」である。

3. 重点戦略の進捗の状況

まつぶし北部活性化プロジェクト

- H28 農村トレーニングセンター改修(老朽化に伴う改修し利便性向上)
 - ・北部サービスセンター オープン
 - ・北部地域子育て支援センター オープン
- H29 北部サービスセンター前に屋外のトイレを設置(農村広場の利用者の利便を向上)

新市街地整備プロジェクト

- ・松伏・田島地区産業団地整備事業(面積 18.3ha) 県企業局と町の共同事業(H30～32) H30 用地買収、都市計画決定(予定)
- ・(仮称)ゆめみ野北地区整備事業(面積 5ha) 住居系の土地利用転換に向け地権者との調整(予定)
- ・東埼玉道路沿線において「道の駅」などの交通拠点の整備に向けた検討が進む

【まとめ】

- ① まつぶし北部活性化プロジェクトは、大規模整備を終え、住民の流入促進・生活支援の充実に重点を移す。
- ② 新市街地整備プロジェクトは、産業団地、住宅地、交通・交流拠点整備であり、圏央道・外環道周辺の順調な企業立地、人口流入の受け皿として効果が見込まれ着実な推進が望まれる。

Ⅲ. 町民意識の状況 (平成29年度実施の町民意識調査を平成24年度実施分と比較する)

1. 住みやすさ・暮らしやすさ

住みやすさ・暮らしやすさ

| 順位 | 理由 | % | 前回 |
|----|----------------|-------|----|
| 1位 | 静かである | 48.3% | 1位 |
| 2位 | 自然環境がよく健康に過ごせる | 40.0% | 2位 |
| 3位 | 地域をよく知っている | 18.6% | 4位 |
| 4位 | 災害発生の心配がない | 15.3% | 6位 |
| 5位 | 買物などの日常生活が便利 | 18.6% | 3位 |

住みにくさ・暮らしにくさ

| 順位 | 理由 | % | 前回 |
|----|---------------|-------|----|
| 1位 | 通勤、通学に不便である | 49.0% | 2位 |
| 2位 | 娯楽や食事を楽しむ場がない | 43.8% | 1位 |
| 3位 | 都心に出るのが不便 | 37.4% | 3位 |
| 4位 | 買物などの日常生活が不便 | 23.8% | 4位 |
| 5位 | 医療環境が恵まれていない | 20.4% | 5位 |

2. 施策の満足度

施策の満足度(高い順)

| 順位 | 施策 | % | 前回 |
|----|--------------------|-------|----|
| 1位 | 公園の整備、緑化の推進 | 27.8% | 2位 |
| 2位 | 下水道・浄化槽などの生活排水処理整備 | 14.5% | 8位 |
| 3位 | スポーツ・芸術・文化活動の推進 | 13.2% | 9位 |
| 4位 | 松伏町らしさを活かした景観づくり | 13.1% | 5位 |
| 5位 | 子どもが健全に育つ環境の整備 | 13.0% | 1位 |

施策の満足度(低い順)

| 順位 | 施策 | % | 前回 |
|----|---------------|-------|----|
| 1位 | 充実した公共交通網の整備 | 60.9% | 1位 |
| 2位 | 道の駅などの観光振興の取組 | 46.8% | - |
| 3位 | 安全で快適な道路環境の整備 | 38.5% | 2位 |
| 4位 | 町の人口減少に対する取組 | 37.9% | - |
| 5位 | 雇用の促進と勤労者の支援 | 28.8% | 3位 |

- 平成24年度実施分には選択肢がない

3. 施策の重要度(今後5年間)

| 順位 | 施策 | % | 前回 |
|----|-----------------------------|-------|----|
| 1位 | 充実した公共交通網の整備 | 46.4% | 1位 |
| 2位 | 町の人口減少に対する取組 | 28.7% | - |
| 3位 | 安全で快適な道路環境の整備 | 21.5% | 5位 |
| 4位 | 交通安全・防犯体制 | 21.4% | 4位 |
| 5位 | あらゆる人が住みなれた地域で安心して暮らせる環境の整備 | 19.7% | 2位 |

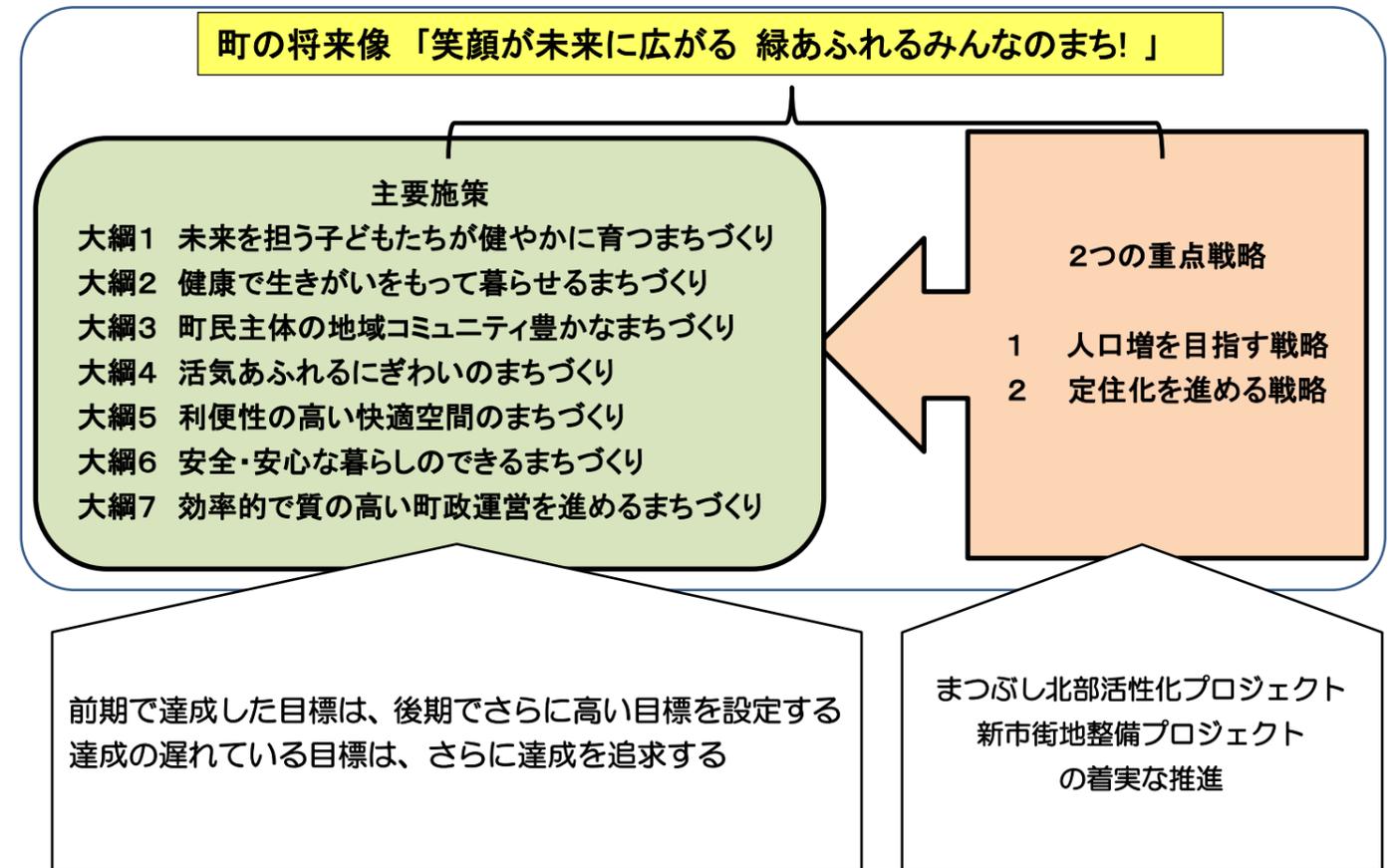
4. 望まれる町の将来像

| 順位 | 将来像 | % | 前回 |
|----|-----------------------------|-------|----|
| 1位 | バスルートの充実などの公共交通の利便性が高いまち | 46.0% | 1位 |
| 2位 | 子育ての支援の充実や子育てする環境が整備されたまち | 28.9% | 3位 |
| 3位 | 高齢者や障がい者が健康で生きがいを持ってすめるまち | 25.4% | 2位 |
| 4位 | 大型店舗が充実した買物に便利なまち | 23.9% | 5位 |
| 5位 | 下水道、生活道路、歩道などが整備された生活しやすいまち | 20.4% | 4位 |

- 平成24年度実施分には選択肢がない

Ⅳ. 全体のまとめ

基本構想の町の将来像などをめざす7つの主要施策と2つの重点戦略への対応



【まとめ】

- ① 社会潮流、町民意識調査の望まれる施策の方向性は策定時と大きな変化はなく、対応の必要性はより高まっており、さらに推進が求められる。
- ② 大綱ー基本計画については、前期で達成した目標は、後期でさらに高い目標を設定する、達成の遅れている目標は、さらに達成を追求することにより、政策効果を高める必要がある。
- ③ 2つの重点戦略のプロジェクトについては、人口増と定住化の必要性と実施の効果(企業立地、人口の流入)の見込みは高まっており、着実な推進が望まれる。

**基本構想・前期基本計画の基本的な枠組を継承して、
7つの主要施策と2つの重点戦略を、後期基本計画において推進する。**

【まとめ】

- ① 住みやすさ・暮らしやすさでは「静かである」「自然環境がよく健康に過ごせる」が町の特徴として前回からも変わらず1、2位を占め、満足度が高い施策も、「公園の整備・緑化の推進」と自然環境とも関連するものである。
- ② 住みにくさ・暮らしにくさの1位の「通勤、通学に不便である」、3位「都心に出るのが不便」、4位「買物などの日常生活が不便」は、施策の満足度の低い項目1位の「充実した公共交通の整備」と関連し、今後5年間の施策の重要度1位の「充実した公共交通網の整備」、実現が望まれる町の将来像1位の「公共交通の利便性の高いまち」につながっている。
⇒ 「公共交通の利便性」の要求については、前期基本計画策定時から変わらず高い。